

8月に実施したセミナーでは、地域が持続的に課題解決を行っていくためには、官民が連携して、地域・社会課題解決と収益性の両立を目指す取組を実施し、地域経済の活性化を実現する必要があるという内容でソーシャル・エックス共同代表伊藤大貴氏にご講演頂きました。10月には、九州内の自治体にお集まりいただき、それぞれの地域で抱える課題を企業に発信するため、社会課題の「言語化」についてご体験頂きました。今回は、九州で事業を営んでいる企業を中心に、それぞれの課題に対し、どのような解決策が考えられるかについてのアイデア出しをワークショップ形式で実施いたしました。

◆ワークショップ（2023年12月7日・会場 GROWTH 1）

「地域・社会課題の解決のためのアイデア出しワークショップ」

■九州内の自治体が抱える課題

- 実証実験で有用性が認められたソリューションを全国展開したい
- 保育士採用率向上
- 大規模イベント会場開業効果を活かした地域経済活性化
- 部活動の地域移行の受け皿づくり

ファシリテーター



共同代表
伊佐治幸泰氏



PR/GR Director
志賀久美子氏



シニア マネージャー
木村亮太氏

◆参加者からのコメント等（参加者18名）

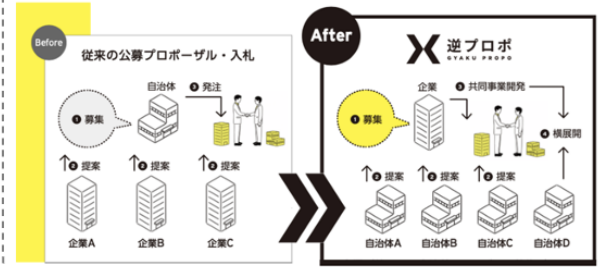
- ◎各自治体の課題、それを解決するアプローチに対して様々なご意見が出て、勉強になりました。当社としても何ができるか考えて発信したいと思います。
- ◎自治体の方はじめ、他業種の皆様の考えをうかがうことが出来、1つの課題に対して様々な角度から解決策を考えることが出来た。
- ◎他方向から柔軟な考え方で物事を見るという皆さんの様々なアイデア出しそのものが1つ1つ印象的でした。
- ◎異業種の方々と交流の機会（特に、普段は接しない業界の方々）をいただき、ありがとうございました。自治体様にはそれぞれの課題もあり、同様の課題があるのではと実感しました。こういう機会は継続して欲しいと思います。
- ◎参加された方のご意見が自社のビジネスのヒントになることがあり、ワークショップの必要性を感じた。次回もこのような機会があれば、是非参加したい。
- ◎様々な自治体の課題を知ることが出来たことは貴重な経験となりました。ありがとうございました。大きく気付きになったことは「自分たちから行政に提案できること。」でした。知ると知らないでは、ビジネスの加速も変わります。社会課題、自治体課題を解決できる提案をさせていただきたいなと思いました。
- ◎様々な立場の違う方々との意見交換が出来たことで、視野を広げることの大切さを痛感いたしました。お一人お一人が目の前のことに心を込めながら、時折この様に課題解決に向けて、立場を越え、アイデア出しをする機会に恵まれたらと感じております。ありがとうございました。
- ◎様々な立場の方々と地域課題について話し合えたこと、普段できないことで、大変有難い機会でした。地域課題は自治体の課題ではなく、民間で働く私たちも地域住民全員の課題として考えていきたいと思っています。

※原文のまま記載

自治体も企業も、最初は相手が何を望み、自身が何を解決してほしいかわかりません。まずはどちらか片方から、それを解像度高く相手に伝えるところからスタートです。

企業から

企業がテーマとなる社会課題を設定し、それに対して提供できるリソースを提示。関心ある自治体の手を挙げる。



SOCIALX

© Copyright 2022 SOCIALX All rights reserved.

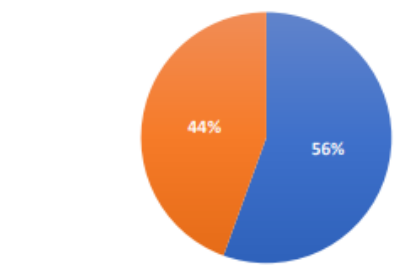
自治体から

自治体が企業と共に解決したい社会課題と、それに対して提供できるリソースおよびビジネス有効性を提示。関心ある企業が手を挙げる。



出所：ソーシャル・エックスの講義資料をもとに作成

n=18 ワークショップの満足度（%）



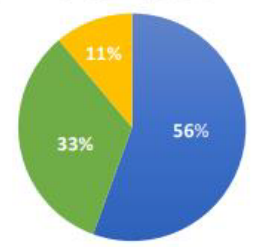
■大いに満足 ■満足 ■普通 ■やや不満 ■大いに不満

◆ワークショップ参加者

- 企業
アドバンテック株式会社
ウィットシステムズ株式会社
一般財団法人ウェルネスサポートLab
株式会社エイチ・アイ・エス
柿元コンサル
スタイルクリエイイト株式会社
西部電機株式会社
双日九州株式会社
東京海上日動火災保険株式会社

- 自治体
飯塚市 行政経営部総合政策課
教育部教育総務課
行政経営部業務改善・DX推進課
直方市 産業建設部商工観光課
（企業、自治体ともに50音順）

n=18 WSを通じた官民共創についての考えの変化（割合：%）



- 現在も実施しているが、更に進めていくなくなった
- 現在検討しているが、進めていくなくなった
- これまで検討していなかったが、検討したくなった
- 検討のきっかけになればと参加したが、きっかけにならなかった
- 進める必要性がないと感じた